

今回冒頭の時間は、先日クラスAのmtgで陽子さんからもらった「その程度の気持ちしか求めている」というフィードバックから、それぞれ10年プロジェクトに求めていることをシェアし合った。

最も心に響いたのは、「フィードバックは**100%**相手のためにやる行為だ」という言葉だ。**ポジティブだネガティブだというのはあくまで言う側の都合で、フィードバックを受け取る側には関係がない。**そして、「正義感に頼ったフィードバックが言いやすい」というのは、事実としてあると思う。今まで自信を持ってフィードバックが言えた時、その根拠まで振り返ったことがなかったけど、それが自分の価値感に裏打ちされたものなのか、社会的な規範が元になっているのか。後者の方が言いやすいことは想像に容易い。

以前クラスAの活動で、メンバーAさんが泣いている高松の後輩の相談にのってあげた時にドキドキしながらコメントしたことがあった。困っている後輩の相談にのることは、社会的には「善い行い」とされている。それに対して異を唱えることに勇気がいったのだと思う。自分の中ではもっと自信を持って言えたフィードバックの方が手応えがあったと思っていたけど、それはあくまで自己満で、相手に届いたか、響いたかどうか全ての評価基準だと思ったら、今までそこをゴールにできていなかったなと思った。

**陽子さんからのフィードバックは正直怖さもある。それは今まで見ないようにして来た都合の悪い本音が含まれるからだ。聞きたい半分、怖さ半分というのが本音だ。**でも、この数年個別フォローやチーム活動を続けてきて、陽子さんからも

らったヒントから、本音に辿り着ける機会がちょっとずつ増えて来た。そして、今まで陽子さんからされたフィードバックで、ためにならなかったものはひとつもない。受け取れる準備ができていないものもあるし、怖さがある状態では**100%**諸手を挙げて求めているとは言えないかもしれないが、それでも諦めたくない気持ちはある。

陽子さんから見ると、私たちはファンタジーの世界で生きているように見えるけど、もしかしたら自分もファンタジーの世界で生きているのかもしれないと言う。今は理想を下げる気もないし、下げる理由もよくわからないと。距離を置くにあたって、これまでの人生でこれほどまで明確に離れる理由を伝えてもらったことはなかった。清々しいほどに陽子さんらしいなと思った。

そして、陽子さんは「今は」理想を下げられないと言っていた。みんなも私もファンタジーを信じられるだけの余裕がある。追い詰められる時が来たら、それぞれがそれぞれのタイミングで変わるのだろうと。誰にいつどんな変化があるかわからないけど、全員「変わりたい」と思っているのは事実で、そのための下準備はコツコツ続けたいと思った。

最初のセッションは、契約社員という形態を望む人のことが理解できないという内容だった。印象的だったのは、クライアントが契約社員に対して感じている疑問を、そのままコーチがクライアントにしていたことだ。「なんで正社員がいいと思ってるの？」、「どうして満足してるの？」と。契約社員より正社員の方がいいというのは、クライアントの中では答えが明確だからこそ、今回のお題に繋がっていると思うので、自

分がコーチだったらわざわざ質問しようと思わなかったと思う。でも、今回のセッションは、そこがキーとなって、それはクライアントが求めていることであって、契約社員を望む人は求めているという話に繋がっていった。

続いてのセッションは、コーチ役の指名を受けた。中途入社の後輩が、社内で四面楚歌の状態に陥っていることに対して、手を差し伸べたくなってしまうというだった。セッション自体は会話がスムーズにいきすぎて誘導してしまったような感覚があった。でも、クライアントが納得感を引き出せた感じもなく、終わった後心配になってしまった。

感想戦では、陽子さんから指摘を受け、クライアントのよくあるパターンの話なのに、いつものセッションと方向性を変えられなかったなと思った。そして、手を差し延べたくて差し延べてるなら、見返りがあるがなかろうが関係ないはずなのに、そこに見返りがくっついてくるから不満が生じるのだという構造が明確になった。

周りにいい人と思われたいがためにそういう役を買って出してしまうという課題をクライアントが抱えていることを知っていたから、その状況をやめたいと思っているという前提で話を進めてしまったが、それが間違いだったんだなあ。クライアントの“迷い”を“不満”と理解できなかった。

今回2つのセッションを通して、前提となる質問(一つ目のセッションは「なんで正社員がいいの?」、二つめのセッションは「何が不満なの?」)をするかしないかで、その後の展開が変わって来るという体験をした。これらは日常生活でもし

ないで話を進めていることが多いと思うが、聞くことで、会話の質が深められるのだと勉強になった。

今回も遅くまでありがとうございました！

(E.M 40代女性 埼玉県)